



REALGATE 事業計画及び 成長可能性に関する事項



2025年12月
東証グロース 証券コード：5532
株式会社リアルゲイト

Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)

Our Vision

古いものに価値を、

不動産にクリエイティブを、

働き方に自由を



会社名 | 株式会社リアルゲイト

設立 | 2009年8月24日

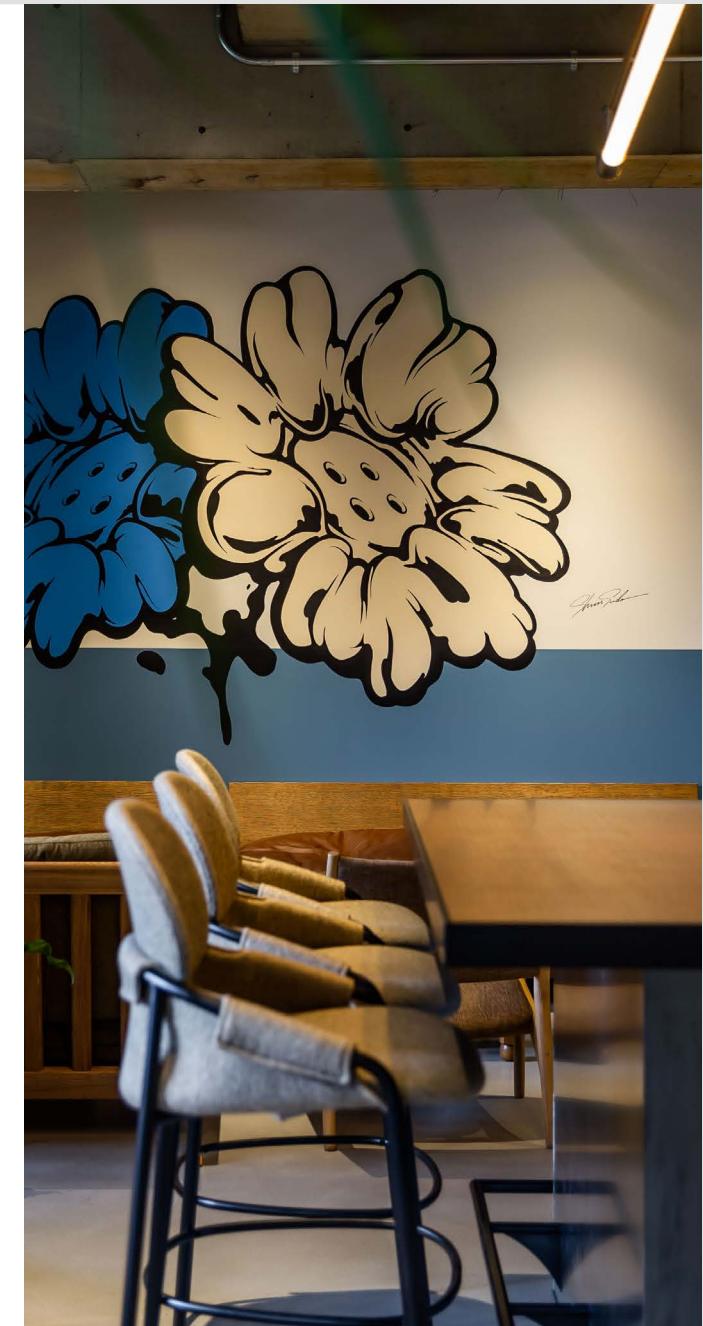
本社 | 東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目51番10号
PORTAL POINT HARAJUKU 3F

代表 | 岩本裕

事業内容 | 不動産に関するコンサルタント業務、不動産売買業務
不動産仲介業務、不動産賃貸業務、不動産管理運営業務
建築・設計監理業務、建築及び内装工事請負業務
損害保険の代理店業務

従業員 | 93名(2025年9月末現在)

役員 | 10名(2025年9月末現在)



- 2009年 8月 東京都目黒区上目黒において株式会社トランジットジェネラルオフィスが株式会社リアルゲイトを設立
- 9月 宅地建物取引業の登録完了
- 2010年 1月 プロパティマネジメントサービスを開始「the SOHO」が第1号施設
- 2012年 2月 東京都港区北青山に本社を移転
- 7月 マスターリースサービスを開始
- 2017年 11月 一級建築士事務所の登録完了
- 2019年 9月 東京都渋谷区千駄ヶ谷に本社を移転
- 2020年 2月 特定建設業許可取得
- 2021年 7月 株式会社トランジットジェネラルオフィス所有の全株式を株式会社サイバーエージェントに譲渡、同社の連結子会社化
- 11月 物件保有を開始
- 2023年 2月 PORTAL POINT HARAJUKU(渋谷区千駄ヶ谷)に本社を移転
- 6月 東京証券取引所グロース市場に上場
- 2024年 6月 累計プロジェクト数100件突破





代表取締役

岩本 裕

一級建築士

1973年生まれ

東京都市大学（旧武蔵工業大学）工学部建築学科卒業

新卒で入社した五洋建設では現場監督とアメフト選手として活動、その後マンションデベロッパーにて土地仕入から企画販売を一貫して経験

リーマンショックを契機に、不景気に強いスモールオフィスビジネスに着目し、2009年8月に当社設立、代表取締役就任

趣味はパワーリフティング（ベンチプレスは160kg）

Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)



MANGA APARTMENT VUY



NEUK shirokanetakanawa



ANYZ



ANYZ

フレキシブルワークプレイス事業 (FWP 事業)

シェアオフィスやスモールオフィス等を組み込み、収益性が低下した不動産を一棟で再生する事業

用語	説明	収益の形式
保有	物件を保有し賃料収入を得る利益率が最も高い	ストック
ML (マスターリース)	オーナーより物件を10~20年間、固定賃料で借り上げ、バリューアップ後にテナントへ転借する	ストック
PM (プロパティマネジメント)	オーナーの物件をバリューアップし、物件の運営を行うことでオーナーから手数料収入を得る	ストック
設計・施工受託	MLやPM物件にて、物件バリューアップのための設計や工事業務を請け負う	フロー
物件売却	リアルゲイトが保有する物件を売却して、売却益を得る売却後もMLかPMのどちらかを継続する	フロー

THE WORKS CROSS を事例にみる
建築物のポテンシャルの最大化(3分34秒)



<https://youtu.be/P96yr0Y1fOs>

代官山にある築 36 年のヴィンテージマンションを一棟丸ごと
リノベーションし、住宅用途からオフィスや SOHO 等へコンバージョン

ML LANTIQUE BY IOQ

運営総床面積 3,107m²

1987 年竣工

共同住宅

地下駐車場付きの平均 150m²

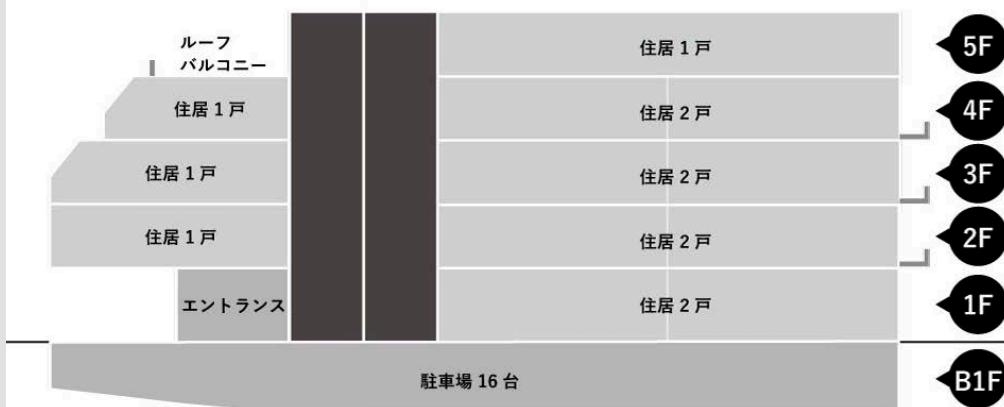
12 戸の住宅

2024 年再生

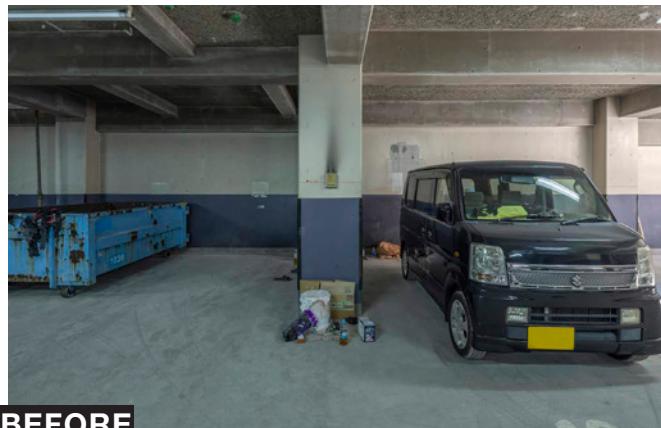
シェアオフィス + 店舗

共用部が充実した平均 60m²

全 35 区画のスモールオフィスや SOHO



経験豊富な一級建築士を擁する自社の技術力で
用途変更・増築・耐震補強を行い抜本的な改良を実施



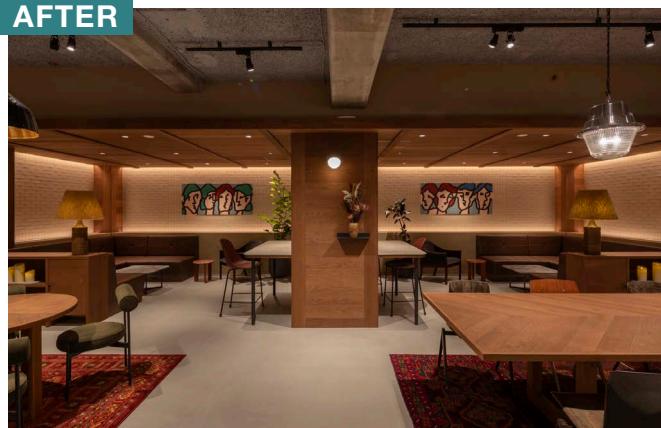
BEFORE



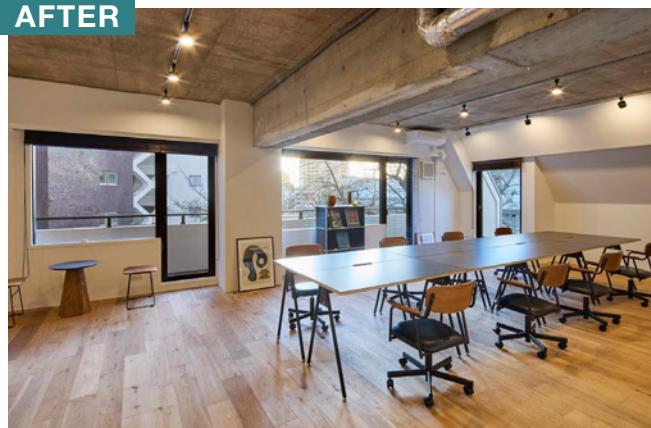
BEFORE



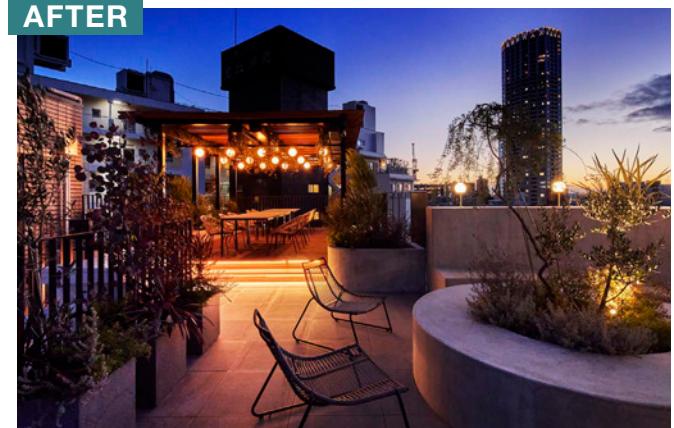
BEFORE



AFTER



AFTER



AFTER

駐車場からオフィス等に用途変更

住宅からオフィス等に用途変更

スカイテラス新設

FWP 事業による築古ビル再生により、収益性が大きく向上

賃料収入（月額）

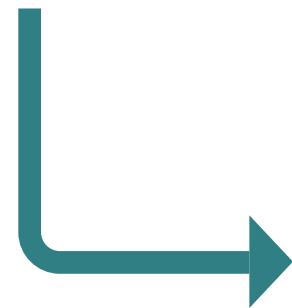
1,810万円

2倍

910万円



再生後



主な展開エリア

渋谷区 33 件

港区 17 件

目黒区 15 件

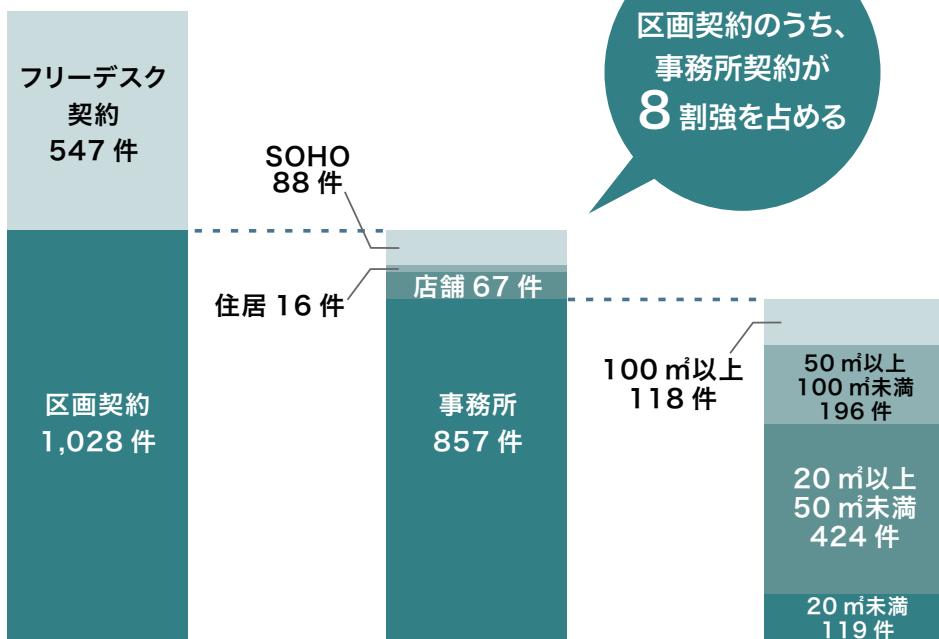
獲得済 PJ 75 件

(2025年9月末時点)



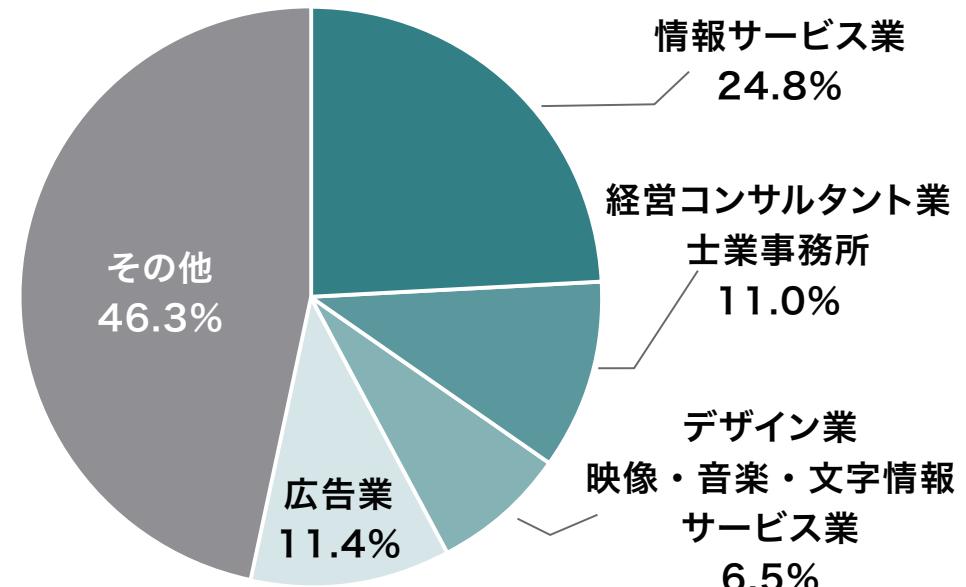
📍 既存獲得済み物件 🚫 2025年9月期以降獲得済み物件

入居テナント契約種別



(2025年10月1日時点)

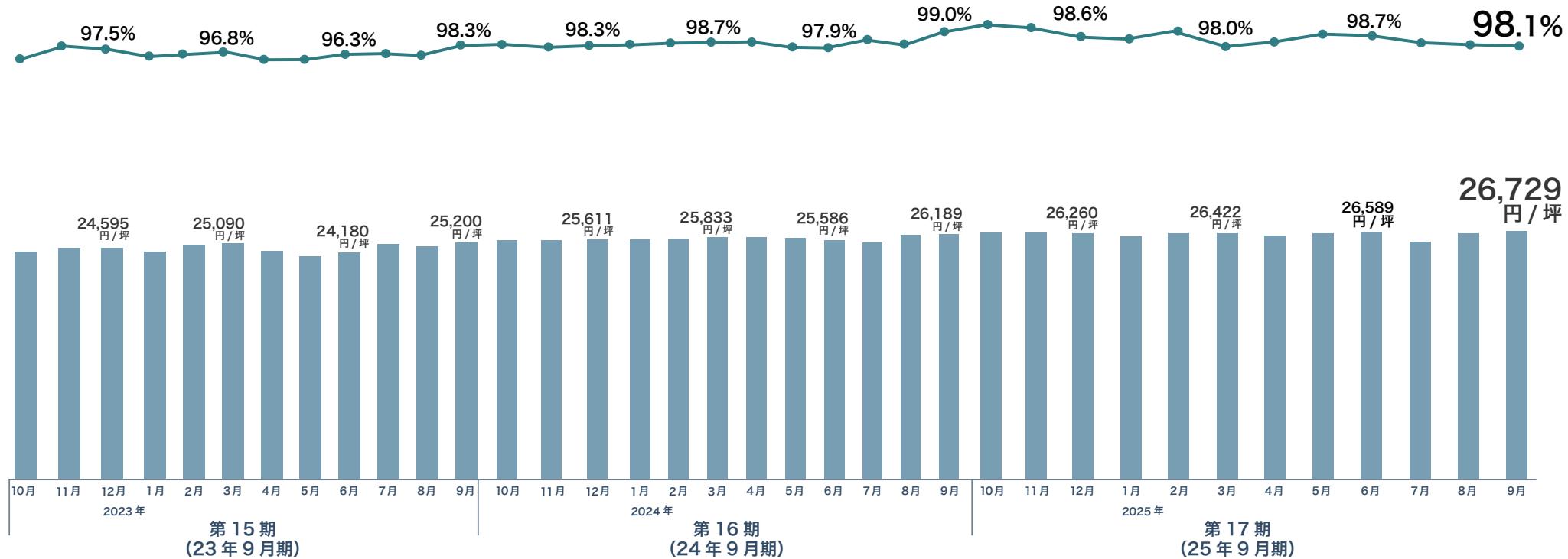
区画：入居テナント業種



(2025年10月1日時点)

稼働率 98.1% と継続して高稼働を維持

稼働率・平均賃料 (ML・保有 / 既存)



※稼働率及び平均賃料は、竣工後1年以上経過した保有・ML物件のうち、終了予定物件を除外して算出

※稼働率は、「稼働中賃貸面積 ÷ 貸借可能床面積」で算出した数値 (%) ※平均賃料は、「(賃料売上※諸経費等除く) ÷ (貸付可能床面積・坪)」で算出した数値 (円/坪)

Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)

キャッシュポイントを増やしながら業績を拡大

2009年～
ストック型

プロパティーマネジメントモデル (PM)

PM 契約をして契約手数料や運営フィーを安定して得る

2012年～
ストック型

マスターリースモデル (ML)

建物を一括借り上げのち転借して安定した賃料を得る

2017年～
フロー型

設計・施工モデル

・2017年 一級建築士事務所 ・2020年 特定建設業許可

2021年～
ストック型

再生物件保有モデル

自ら購入し、リノベーションによりバリューアップし賃料を得る

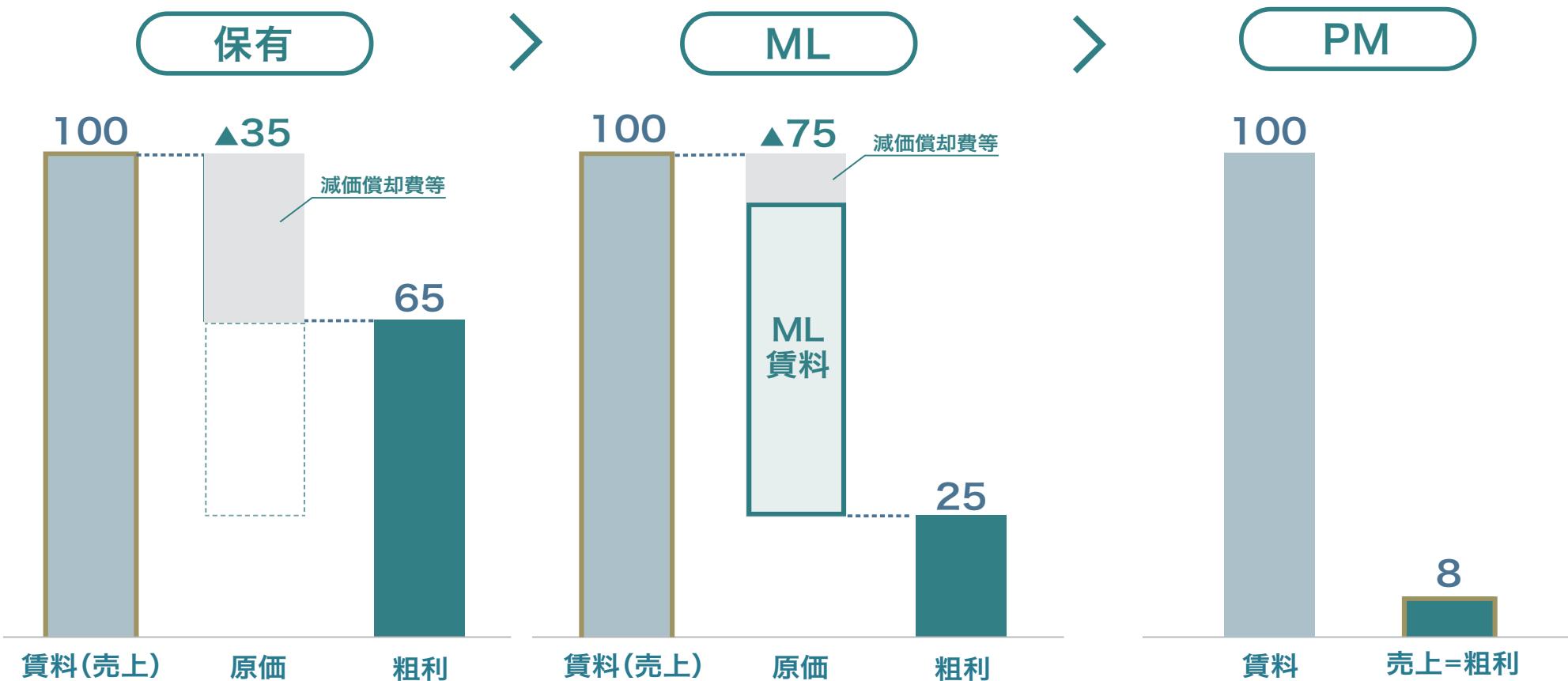
2023年～
フロー型

キャピタルゲインモデル

売却益を得た上で、ML 等のストック収入に繋げる

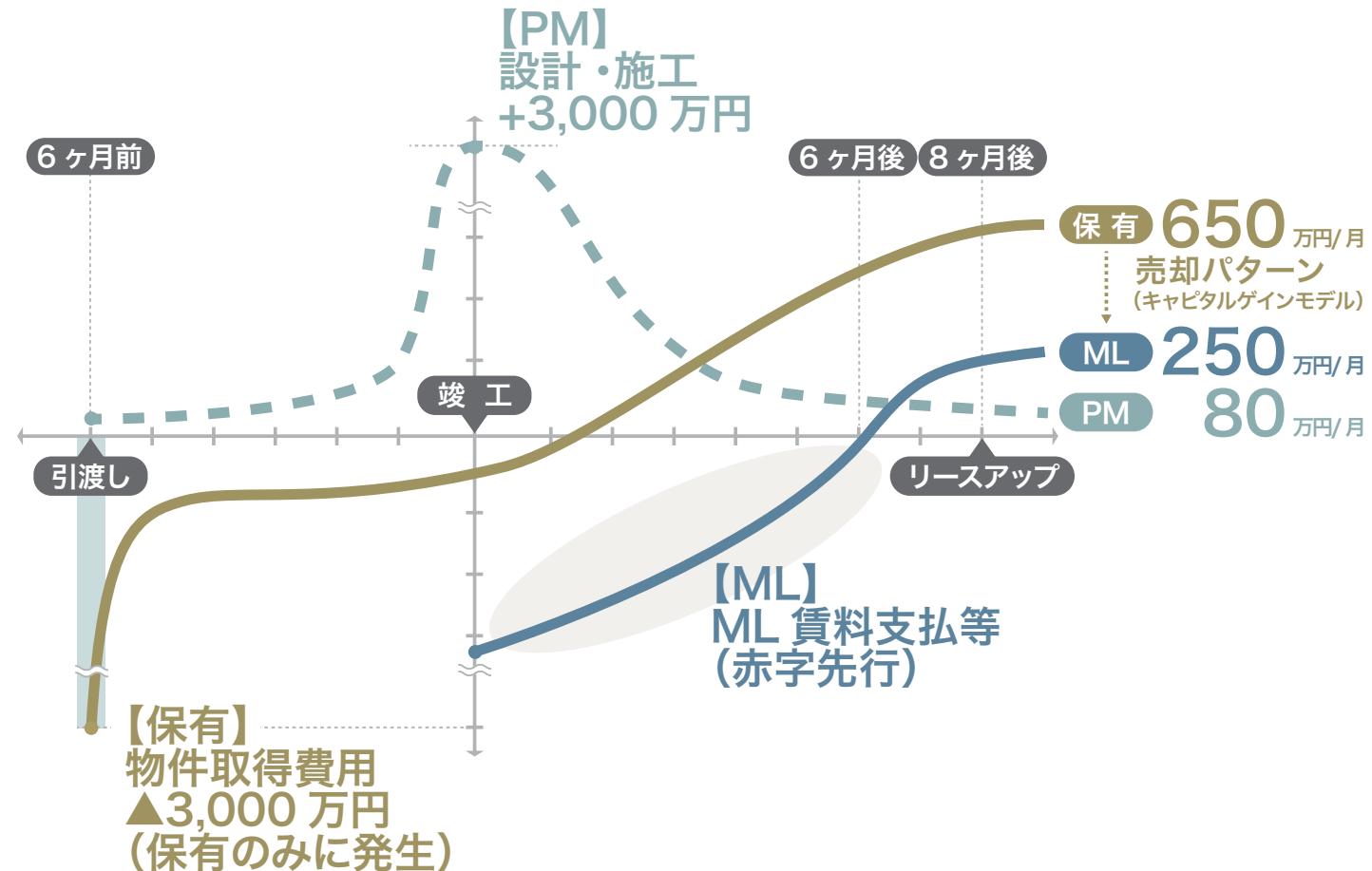
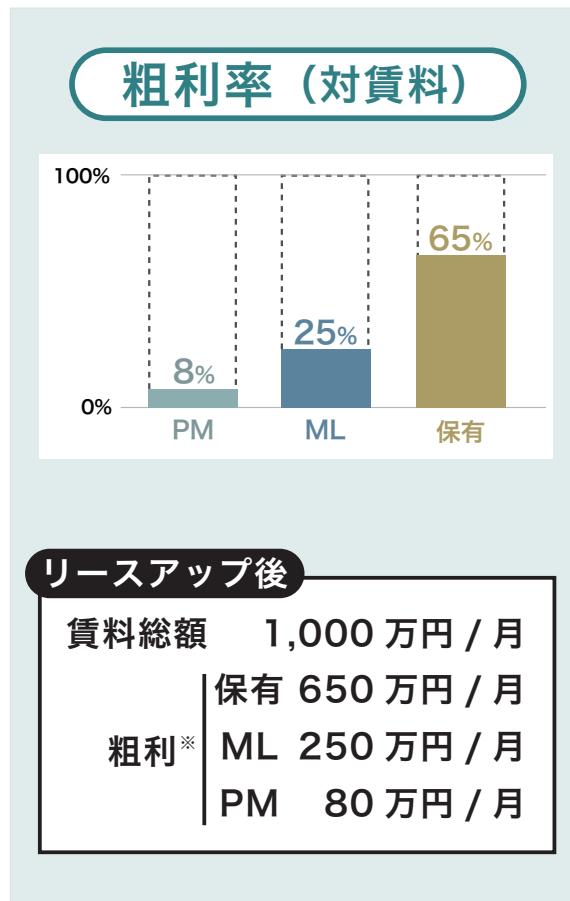
収益性の高い物件を優先して獲得を進める(保有>ML>PM)

- 保有は、支払い賃料がないため、売上の 65% 程度が粗利
- ML(マスターileeス)は、支払い賃料があり、売上の 25% 程度が粗利
- PM(運営受託)は、手数料収入のため、賃料の 8% 程度が売上(=粗利)



収益性の高い 保有 > ML > PM の順で物件獲得を進める

(ex) 渋谷区延床面積 400 坪の築古ビル



Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)

不動産の課題を「技術力」「企画・運営力」で解決

日本の不動産が抱える課題

- ①耐用年数を迎える多くの築古ビル
- ②建築費高騰
- ③新築大規模開発の見直し

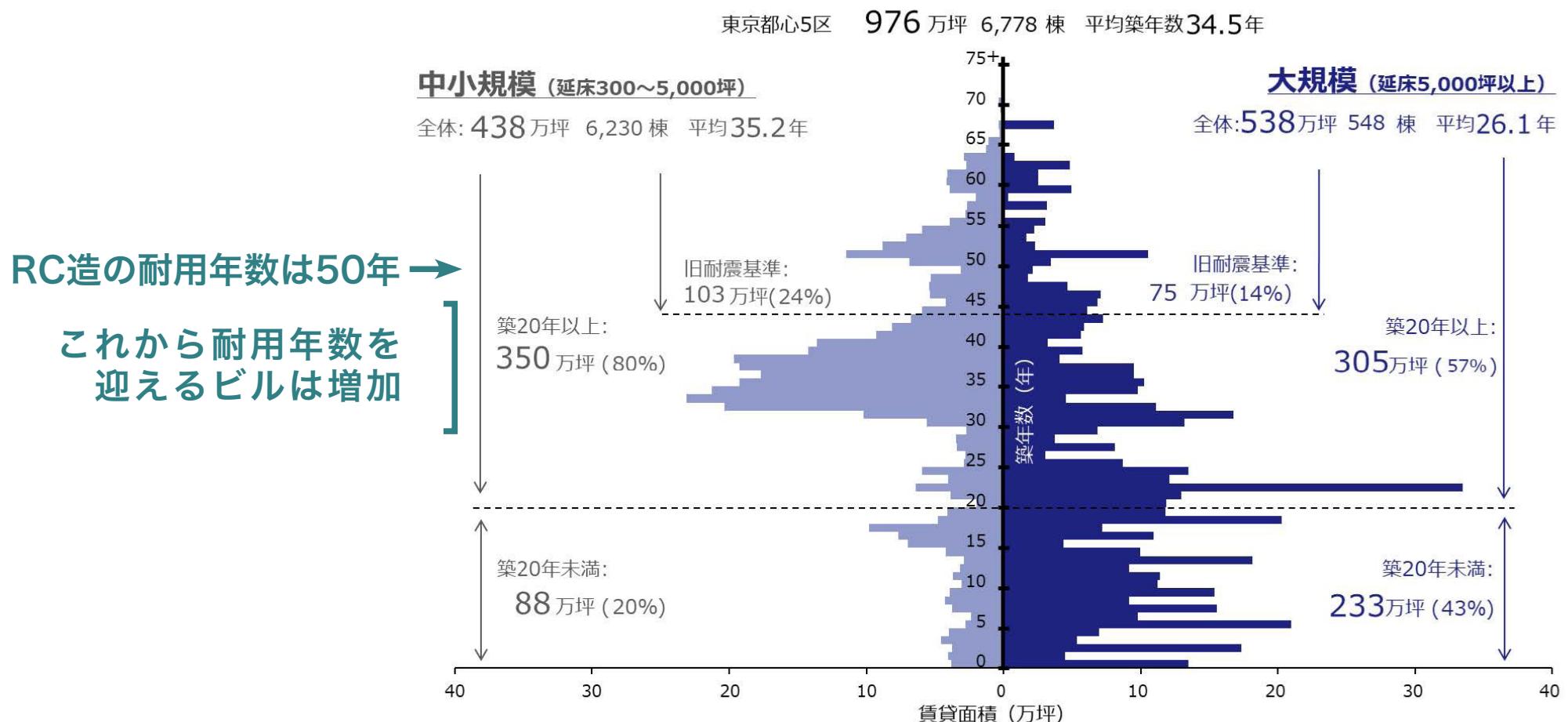
リアルゲイトの強み

- ①「技術力」により安心・安全な物件への再生
- ②「企画・運営力」により高収益物件へ甦らせる

強みを活かして不動産が抱える問題を解決

20年後には約70%の中小規模ビルが法定耐用年数を超える

参考 オフィスピラミッド (都心5区)



▲ザイマックス不動産総合研究所「オフィスピラミッド 2025 東京 23 区・大阪市」
https://soken.xymax.co.jp/2025/01/15/2501-stock_pyramid_2025/

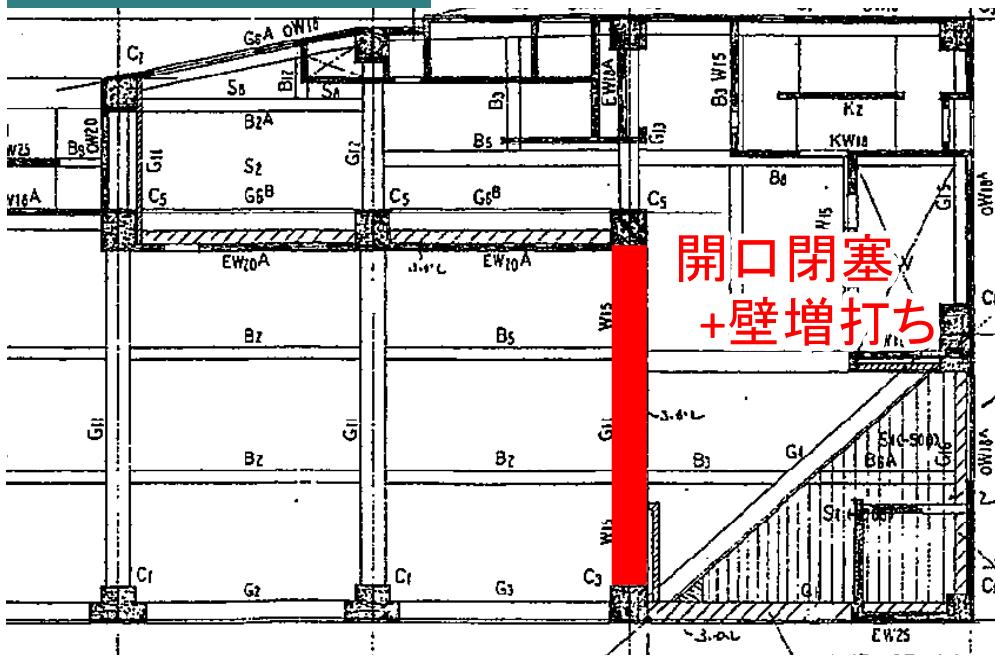
建築費の高騰により新築の計画が困難となっている

- ・新宿駅南口再開発が未着工で完成時期未定（2025年6月）
- ・中野サンプラザ再開発白紙（2025年3月）
- ・目黒区民センター整備・運営事業の中止（2025年1月）
- ・TOCビル建替え計画の変更（2024年4月）



築古ビルを安心・安全に収益性の高いビルに再生

耐震補強



～1981年5月
旧耐震基準

1981年6月～ 新耐震基準

耐用年数を伸ばし、不動産の資産価値も向上

耐久性の強化

鉄筋コンクリート造(事務所)
法定耐用年数は 50 年



耐久性の強化
躯体欠損の補修、コンクリート中性化防止等



ER 取得※→耐用年数が延長
<建物の資産価値向上>



▲躯体補修（ひび割れ注入工法）

定期的なメンテナンスで安全性と耐久性を維持

定期点検・大規模修繕工事



▲防水工事



▲シーリング工事



▲給排水管更新



▲空調設備更新

検査済証未取得物件の適合性を確保

適合性確保

検査済証未取得※

遵法性確認
一級建築士事務所（社内）

事前協議（審査機関等）

工事※必要な場合

建築基準法適合状況調査
<適合性確保>

1981年 建築基準法の大改正
→検査済証を取得する物件が増えた
→それ以前の物件は未取得が多い

増築の場合

【増築】 確認申請・工事

【増築】 完了報告・検査

検査済証取得

余剰面積を計算し増築を行い、賃料収入総額をアップ

増築



用途変更することで坪単価アップだけでなく床面積増加も実現

用途変更

BEFORE: 倉庫



AFTER: カフェ



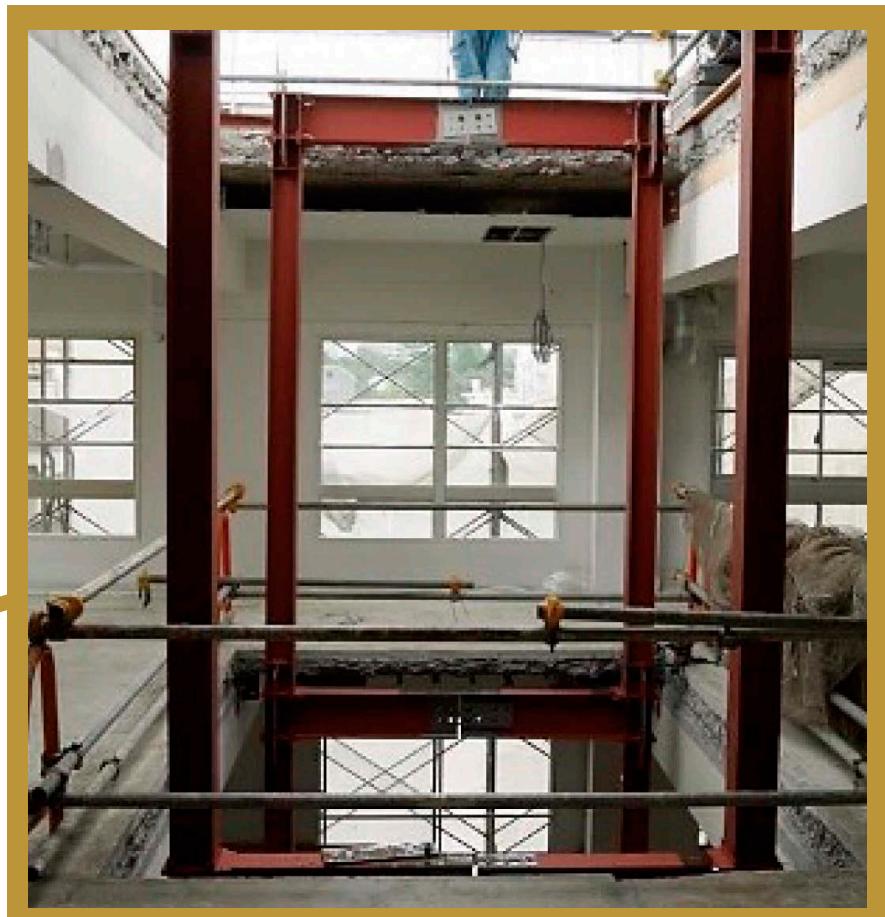
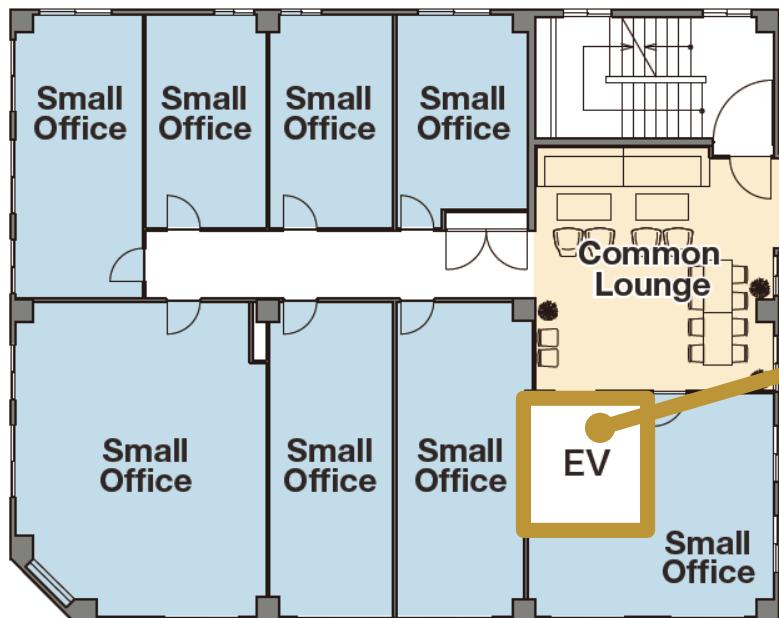
エレベーター新設による利便性の向上により、
物件の価値が大幅アップ

エレベーター新設

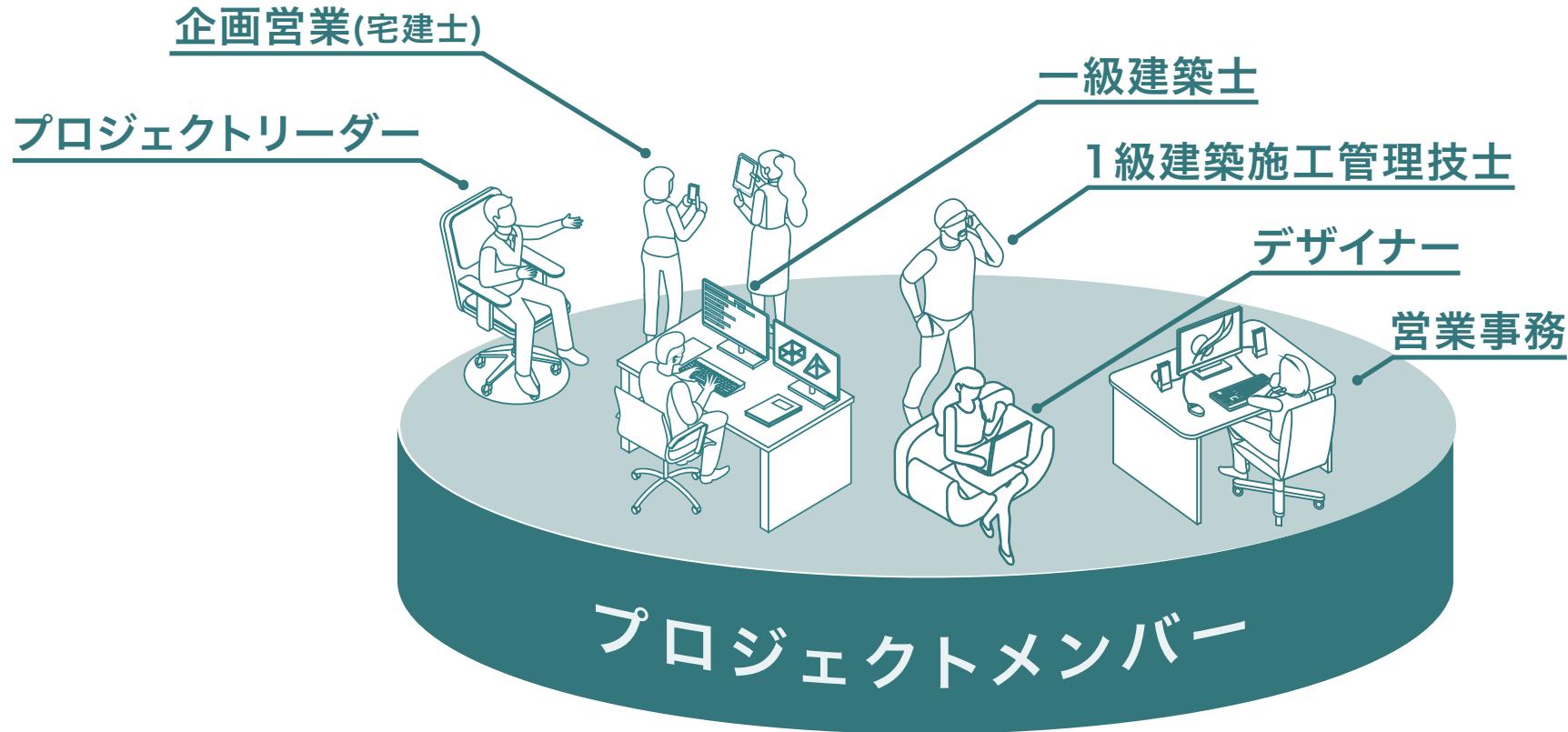
BEFORE: ワンフロアオフィス



AFTER



プロジェクトチームを作り、ワンストップで進める



スピード感ある物件づくりを実現

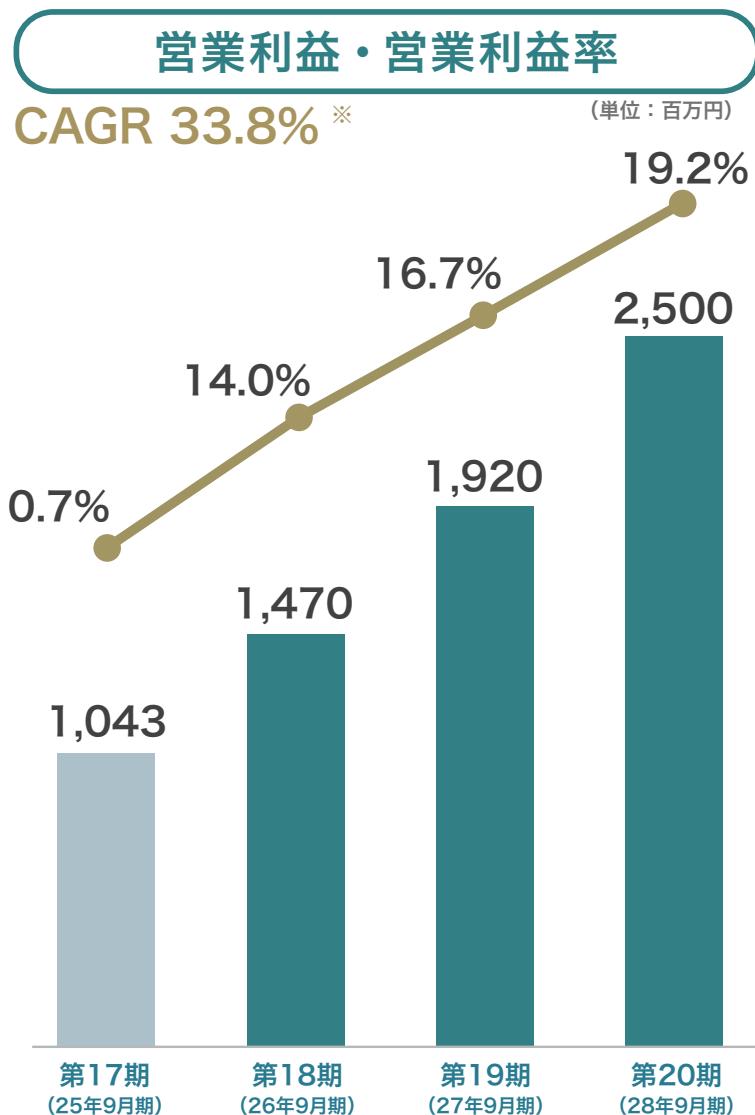
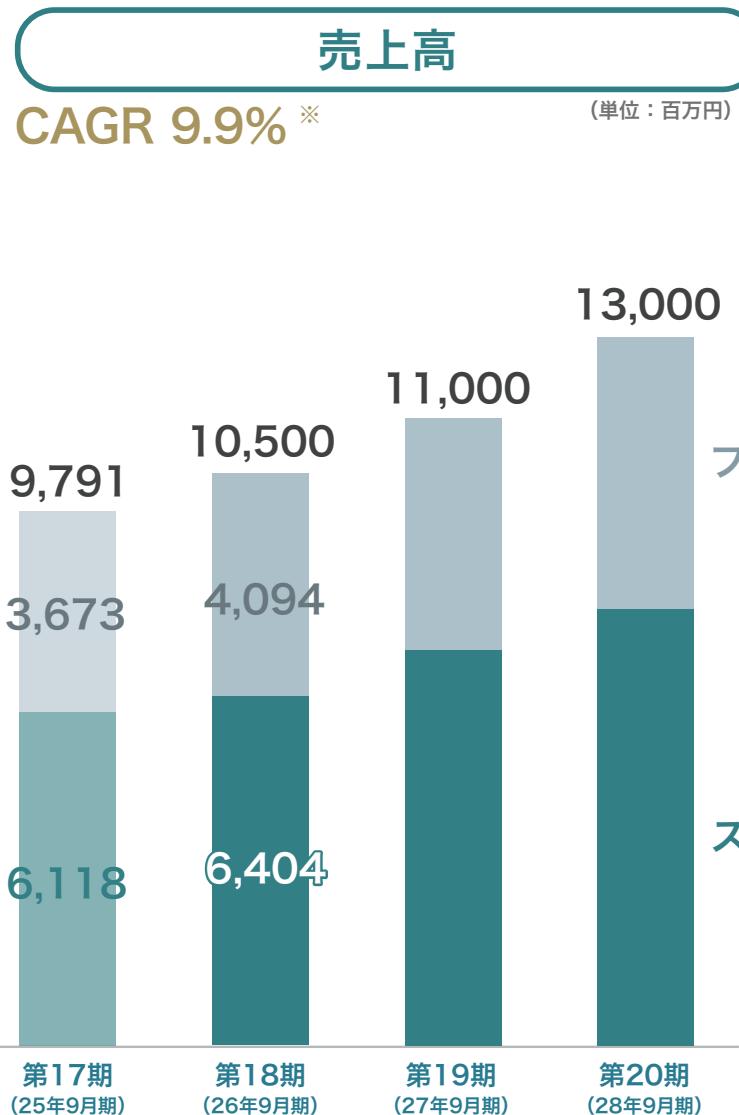
Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画**
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)

高収益物件の展開により営業利益率を向上
継続的な+30%以上の成長を目指す

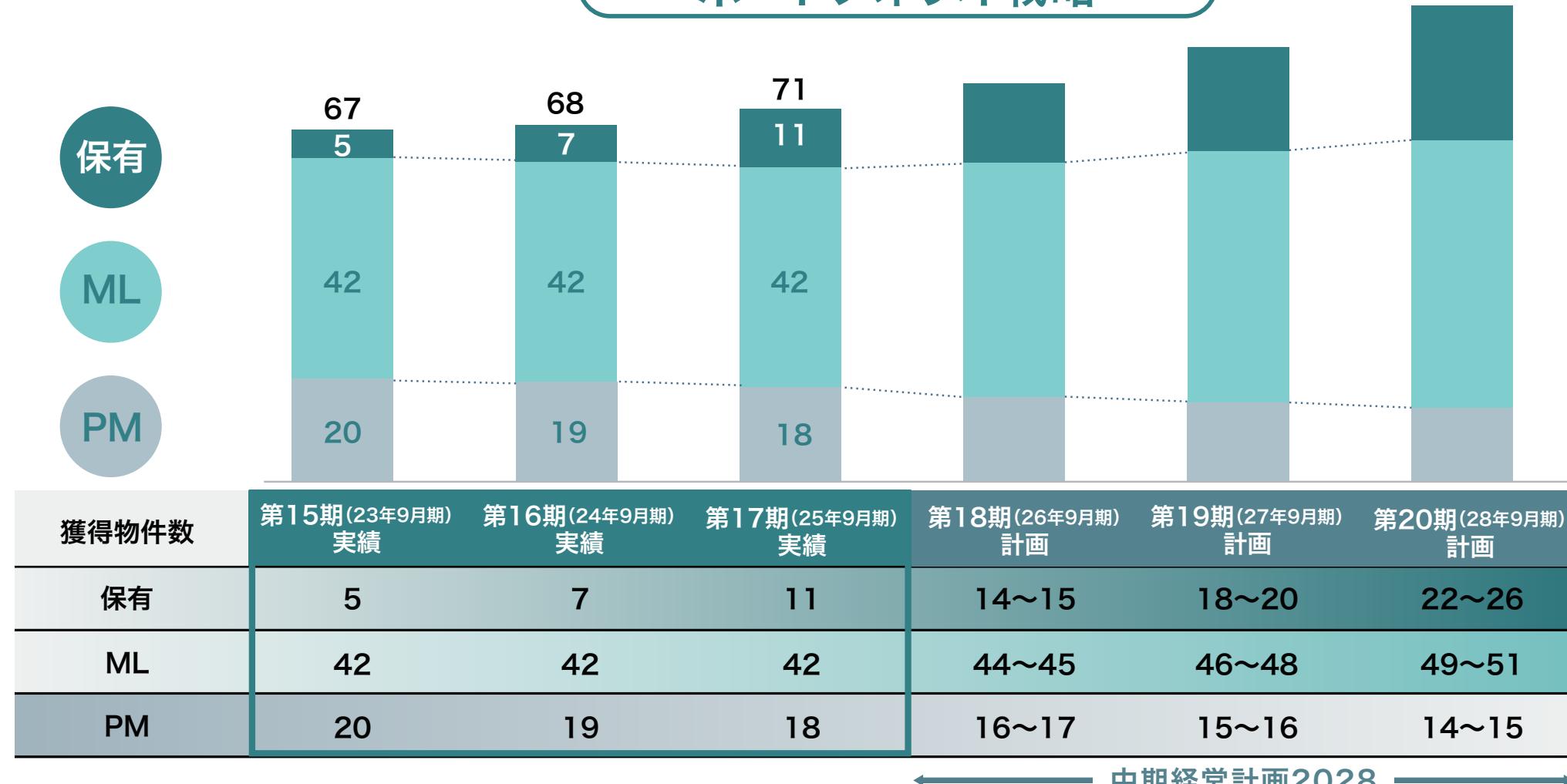
(単位:百万円)	18期(26年9月期) 計画	19期(27年9月期) 計画	20期(28年9月期) 計画
売上高	10,500	11,500	13,000
売上高前期比	+7.2%	+9.5%	+13.0%
営業利益	1,470	1,920	2,500
営業利益率	14.0%	16.7%	19.2%
営業利益前期比	+40.9%	+30.6%	+30.2%

ストック型収益を基盤に業績拡大、営業利益率も向上



収益性の高い保有物件比率を高め、営業利益率を向上させる

ポートフォリオ戦略



26年9月期は9件の開業物件が収益貢献を予定

獲得時期	開業時期	物件名/PJ名	所在地	契約形態	運営面積(m ²) ^{※1}
第17期(25年9月期)開業					
24年9月期	25年3月	① FACET71	再生	渋谷区	保有(長期) 1,405
24年9月期	25年3月	② FACET72	再生	渋谷区	保有(長期) 920
24年9月期	25年3月	③ MANGA APARTMENT VUY	再生	東京都	CM ^{※2} —
24年9月期	25年4月	④ NEUK shirokanetakanawa	再生	港区	ML 1,036
21年9月期	25年6月	⑤ ANYZ	新築	港区	PM 2,194
第18期(26年9月期)開業予定					
① 25年9月期1Q	25年10月	(1) THE STEPS/SHIFT HOTEL	再生	渋谷区	ML 2,157
24年9月期	25年10月	(2) FURAM SANGUBASHI	再生	渋谷区	保有(販売用) 904
23年9月期	26年1月	(3) (仮称)原宿新築ビルPJ	新築	渋谷区	CM ^{※2} 1,812
② 25年9月期2Q	26年4月	(4) (仮称)第一清水ビル再生PJ	再生	渋谷区	ML 1,238
③ 25年9月期3Q	26年4月	(5) (仮称)港区芝5丁目再生PJ	再生	港区	保有(長期) 1,058
④ 25年9月期4Q	NEW 26年5月	(6) (仮称)千駄ヶ谷1丁目再生PJ	再生	渋谷区	保有(長期) 1,506
26年9月期1Q	NEW 26年5月	(7) (仮称)世田谷区池尻再生PJ	再生	世田谷区	保有(長期) 1,146
23年9月期	26年8月	(8) (仮称)目黒区大橋1丁目新築PJ	新築	目黒区	保有(販売用) 1,124
⑤ 25年9月期1Q	26年9月	(9) (仮称)中目黒1丁目再生PJ	再生	目黒区	保有(長期) 1,916
第19期(27年9月期)以降開業予定					
⑥ 25年9月期3Q	26年11月	(10) (仮称)渋谷区千駄ヶ谷再生PJ	再生+増築	渋谷区	PM 860(+88)
⑦ 25年9月期1Q	26年12月	(11) (仮称)上目黒1丁目商業施設新築PJ	新築	目黒区	ML 2,336

※1 運営面積は、開業前物件については見込みの概算面積であり、変動の可能性がある

※2 CMは、コンストラクションマネジメントを指し、設計や施工など、不動産に関するマネジメント業務が含まれる

ポートフォリオを適宜入替え、収益性の高い保有物件を積み上げる

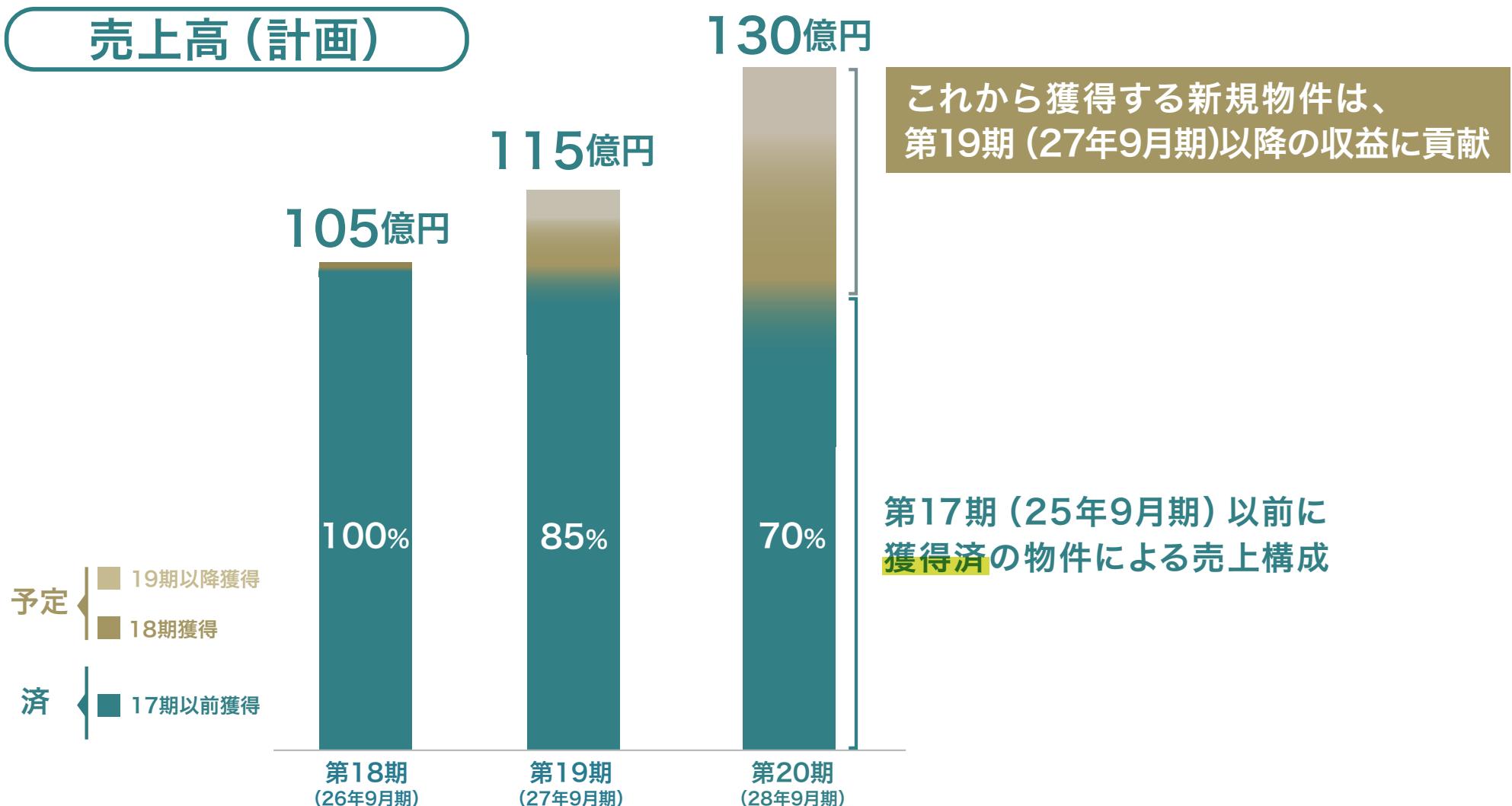
	取得時期	物件名称	立地	築年数 (25年9月末時点)	延床面積 (m ²)
22年9月期 (1,519m ²)	21年11月	PORTAL POINT HARAJUKU ANNEX (23年10月売却→ML)	渋谷区千駄ヶ谷3丁目	4年	—
	21年11月	IVY WORKS (24年2月売却→ML)	渋谷区千駄ヶ谷5丁目	51年	—
	21年11月	❶ THE MOCK-UP ^{*1} (25年10月売却→PM)	千代田区麹町4丁目	33年	1,519
	22年 9月	ARCHES KAMIYAMACHO (23年3月売却→PM)	渋谷区神山町6丁目	33年	—
23年9月期 (1,333m ²)	23年 5月	❷ AMBRE	渋谷区千駄ヶ谷3丁目	38年	1,333
	24年 3月	OMB目黒中町 (25年3月売却→PM)	目黒区中町1丁目	22年	—
	24年 3月	❸ (仮称)目黒区大橋1丁目新築PJ (売却決定済)	目黒区大橋1丁目	—	1,124
	24年 6月	❹ FACET72	渋谷区鉢山町	34年	920
	24年 6月	❺ FACET71	渋谷区鉢山町	27年	1,405
	24年 9月	❻ (仮称)代々木4丁目再生PJ	渋谷区代々木4丁目	32年	904
25年9月期 (5,641m ²)	24年12月	❼ (仮称)中目黒1丁目再生PJ	目黒区中目黒1丁目	34年	1,916
	25年 3月	❽ OMB北参道	渋谷区千駄ヶ谷3丁目	42年	446
	25年 3月	❾ OMB東麻布	港区東麻布2丁目	62年	715
	25年 8月	❿ (仮称)港区芝5丁目再生PJ	港区芝5丁目	62年	1,058
	25年 9月	❻ NEW (仮称)千駄ヶ谷1丁目再生PJ	渋谷区千駄ヶ谷1丁目	56年	1,506
26年9月期	25年10月	❻ NEW (仮称)世田谷区池尻再生PJ ^{*2}	世田谷区池尻	34年	—

→11件の延べ床面積 計12,848m²満室時の年間想定賃料は合計約11.5億円

*1 2025年10月23日(開示事項の経過)販売用不動産の売却決済完了に関するお知らせ: https://realgate.jp/ir/upload_file/tdnrelease/5532_20251023577450_P01_.pdf

*2 2025年10月16日 固定資産の取得に関するお知らせ: https://realgate.jp/ir/upload_file/tdnrelease/5532_20251016574561_P01_.pdf

獲得済の物件で中期経営計画の売上高の大半を構成



営業利益の 30% 以上の継続的な成長
6 年後の 50 億円 + α の営業利益達成を目指

50億円
+
 α

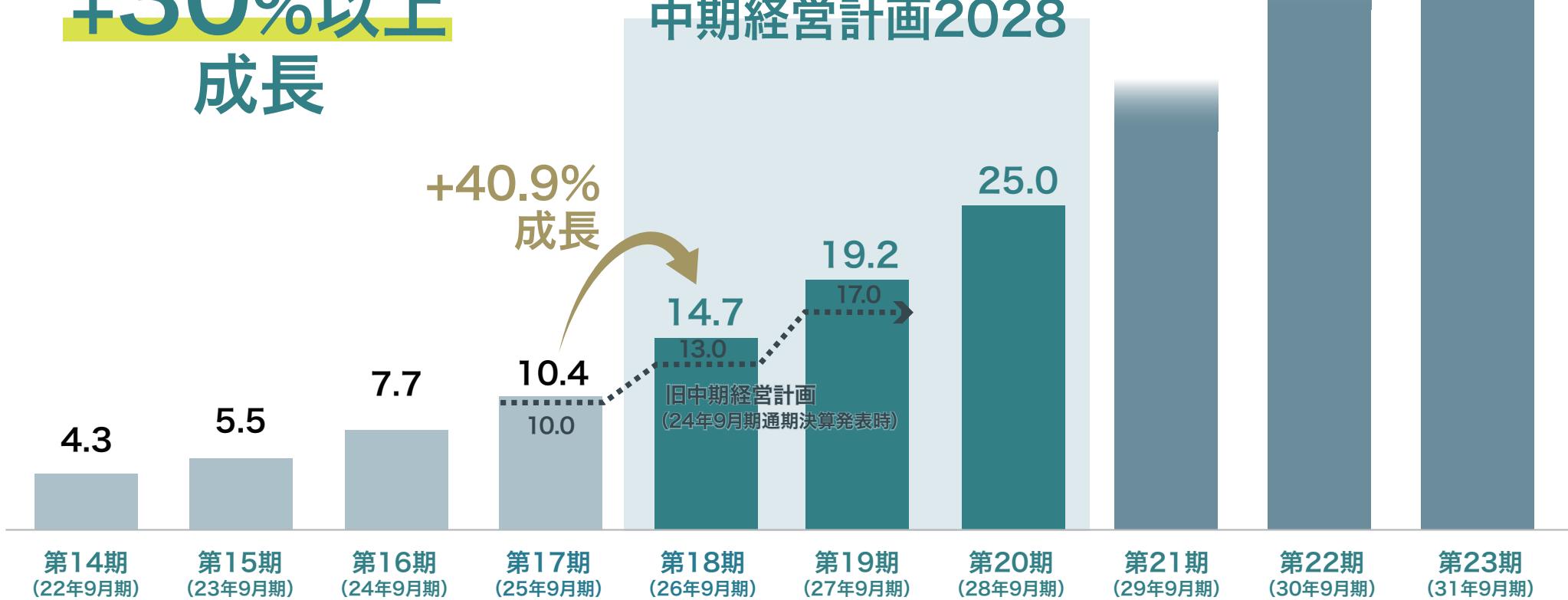


(単位: 億円)

継続的な
+30%以上
成長

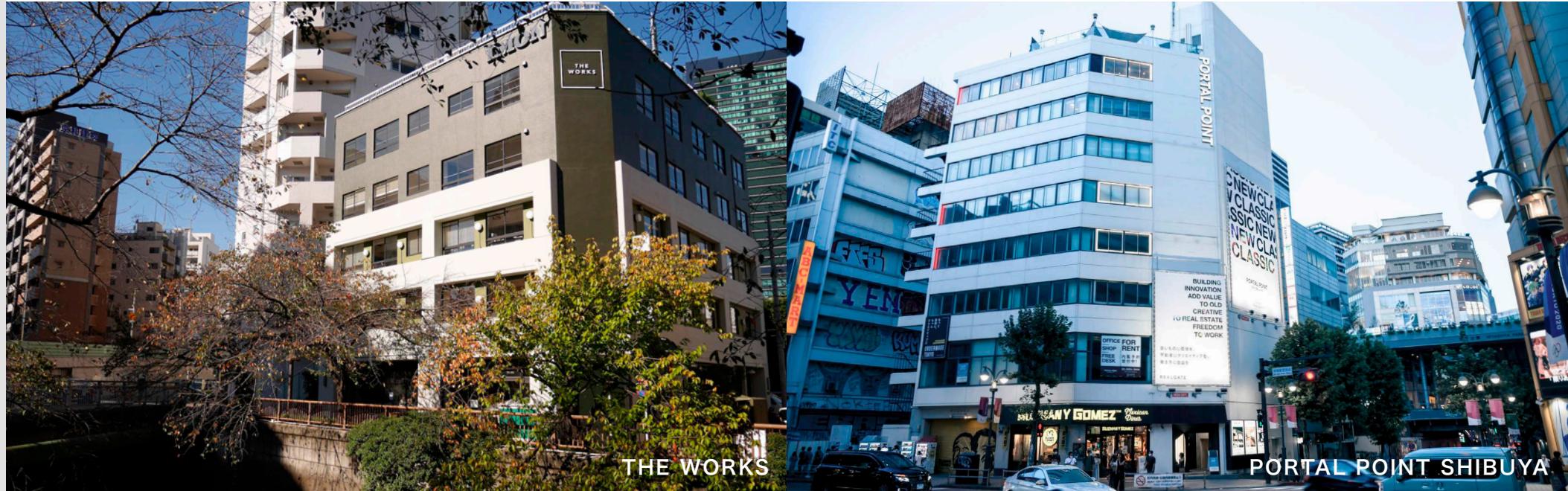
中期経営計画2028

+40.9%
成長



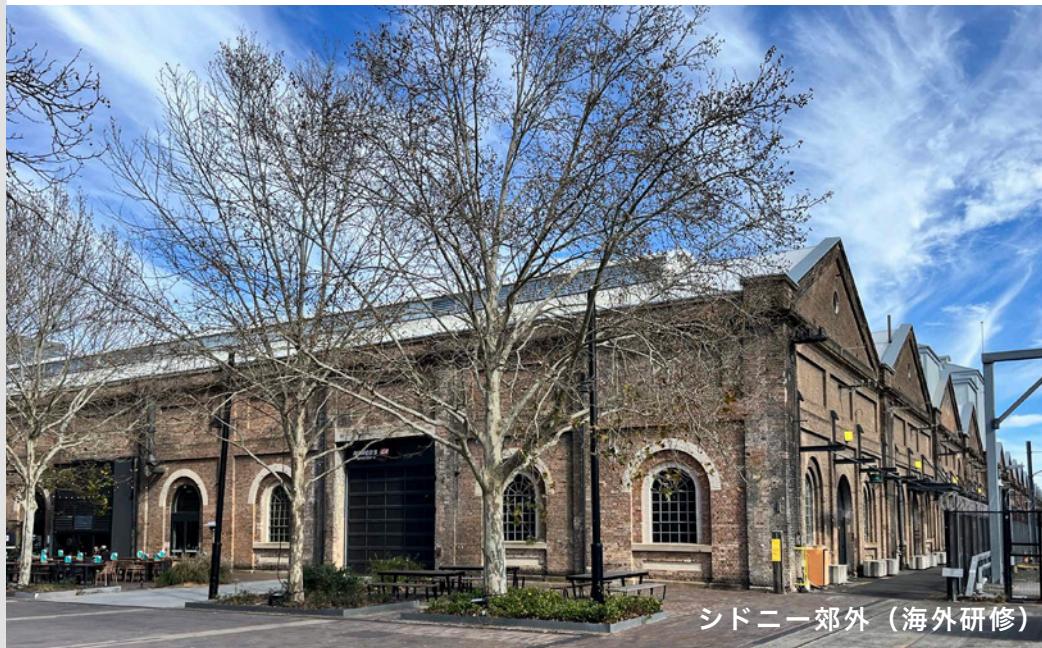
「技術 × 発想 × 資本」で 100 年使える建物を次世代へつなぐ、
そのハブとなるのがリアルゲイト

- ① 100 年使える建物を再評価し、古さと新しさの共存で街の寿命と価値を延ばす
- ② 安全性の担保と用途転用を可能にする技術で、建物の寿命と価値を延ばす
- ③ 用途ミックス × 体験設計で人の交流と経済循環を生み、街に新たな価値を創出
- ④ 大手デベロッパーとの JV やファンド組成を検討し、大型再生案件に挑む体制を整備



100 年使える建物を再評価し、古さと新しさの共存で街の寿命と価値を延ばす

- シドニーでは歴史的外観の保存により用途制限・容積率が緩和され、街全体で共存が実現
- 東京の多くのビルは築 30 ~ 40 年で解体され、潜在耐用年数（100 年）の三分の一で消費
- 環境負荷増大・人手不足・物価高騰で新築偏重の見直しが急務
- リアルゲイトは再生を軸に「長く使い続ける都市」のあり方を提案



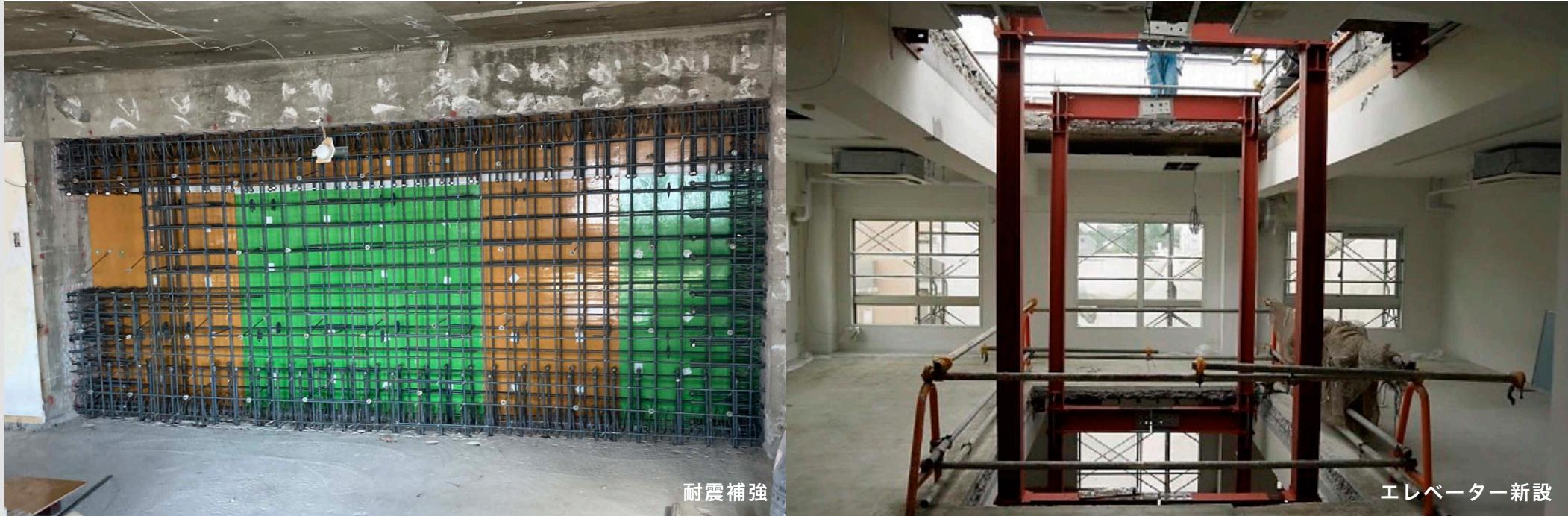
シドニー郊外（海外研修）



シドニー郊外（海外研修）

安全性の担保と用途転用を可能にする技術で、建物の寿命と 価値を延ばす

- 地震国である日本での安心のため、耐震補強などの安全性向上が前提
- 住宅からホテルへ、事務所から店舗等へ、ニーズの変化に応える用途変更
- 増築やエレベーターの新設等を行うことで賃料を最大化
- AI を活用した図面や見積り作成システムの開発



用途ミックス × 体験設計で人の交流と経済循環を生み、街に新たな価値を創出

- これまで：フレキシブルオフィスを中心に多様な空間を提供
- これから：ホテルや都市型ショッピングモール等の企画に挑戦
- 用途の掛け合せで滞在時間・交流・消費を拡大
- 複合的な価値づくりが次世代不動産の「出口戦略」となる



大手デベロッパーとの JV やファンド組成を検討し、大型再生案件に挑む体制を整備

- 現状、1000 坪超ビルの自社取得は困難
- 大手デベロッパーとの JV により信用力・案件規模・ノウハウを拡張
- 自社ファンド設立で安定調達・スピードを確保
- 資本の力を背景に再生事業のスケールを拡大し、次のステージへ



Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)

主要なリスク	顕在可能性	影響度	対応策等
<p>【災害等の発生について】</p> <p>昨今の気候変動等により地球規模での自然災害が発生しておりますが、特に日本においては地震の多発化、温暖化による集中豪雨の発生、台風の大型化等が見受けられます。自然災害によって当社が所有する不動産の価値が著しく下落することで、当社の業績に影響を及ぼす可能性がありますが、当社は、自然災害等の発生に備え、人的被害の回避を最優先としつつ事業継続を図るため、災害発生時マニュアルの整備及び訓練等によって、リスク回避と被害最小化に努めています。</p>	中	大	当社は、自然災害等の発生に備え、人的被害の回避を最優先としつつ事業継続を図るため、災害発生時マニュアルの整備及び訓練等によって、リスク回避と被害最小化に努めています。
<p>【修繕について】</p> <p>当社は、高いデザイン性を実現しつつも、高い安全性と品質にこだわった設計・施工を心掛けています。しかしながら、当社が設計・施工した物件に不具合や老朽化による修繕の必要性が生じる可能性は否定できず、その際の手直しに要する追加の施工費、重大な瑕疵による損害賠償等は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。また、人身や施工物等に係る重大な事故の発生も損害賠償金の支払い等により当社の信用が著しく毀損した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	中	大	当社は、追加の施工費に備え、予備費を予算計上しており、重大な瑕疵を未然に防止するため、安全パトロールの実施をしております。また、損害賠償金の支払いに備えた保険の加入によって、リスク回避と被害最小化に努めています。
<p>【固定資産の減損について】</p> <p>当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」を適用しております。当社では、遊休不動産への設備投資等により、有形固定資産が増加傾向にあります。今後資産の利用状況及び資産から得られるキャッシュ・フローの状況等が悪化し、減損処理が必要となった場合、当社の業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。</p>	大	中	当社は、地域を絞った集中的な物件運営により、早期把握したエンドテナントへの賃料相場をもとに個別プロジェクトごとの収支が安定して計上できることを確認したうえで意思決定しております。これによって、リスク回避と被害最小化に努めています。

Index

- 01 会社概要
- 02 ビジネスマodel
- 03 収益構造
- 04 市場環境と強み
- 05 事業計画
- 06 リスク情報
- 07 付録(25年9月期決算)

売上高(累計)

9,791 百万円

前年同期比 +23.2%

営業利益(累計)

1,043 百万円

前年同期比 +36.0%

当期純利益(累計)

559 百万円

前年同期比 +47.0%

獲得済 PJ

75 件

11件(保有) 42棟(ML)

前年同期 **71** 件

運営中物件
(竣工済)

65 件

7件(保有) 39件(ML)

前年同期 **62** 件

運営面積

104,253 m²

8,325m²(保有) 58,193m²(ML)

前年同期 **98,923** m²

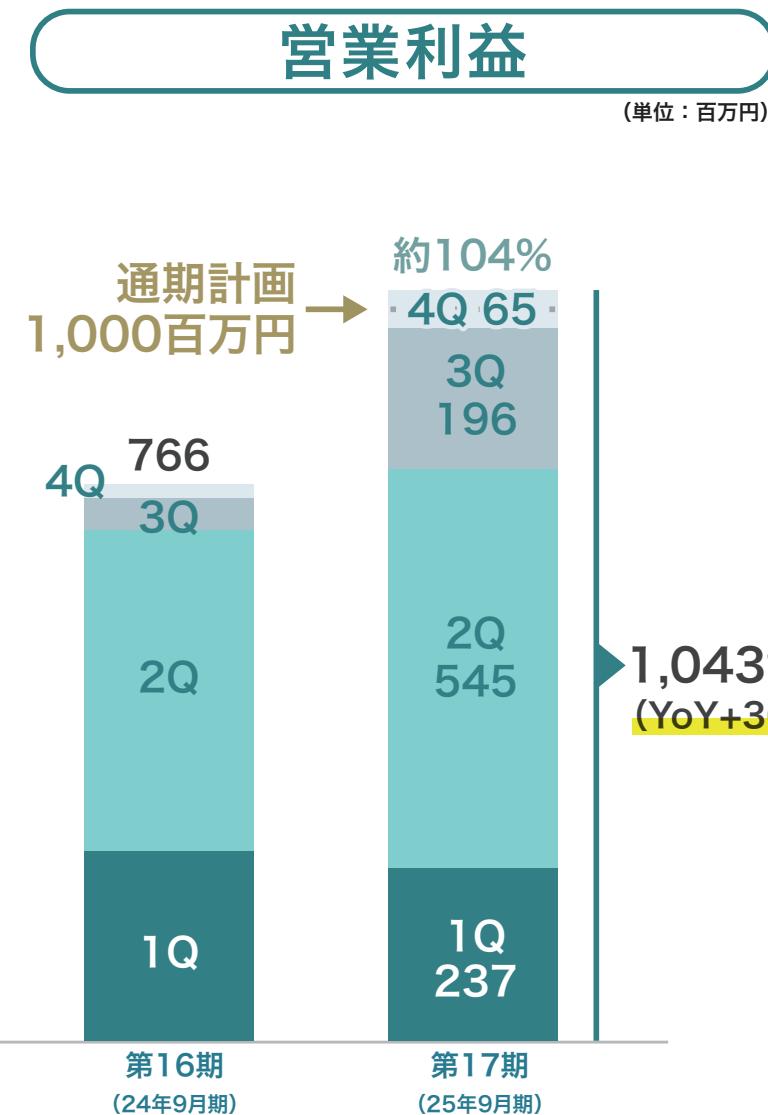
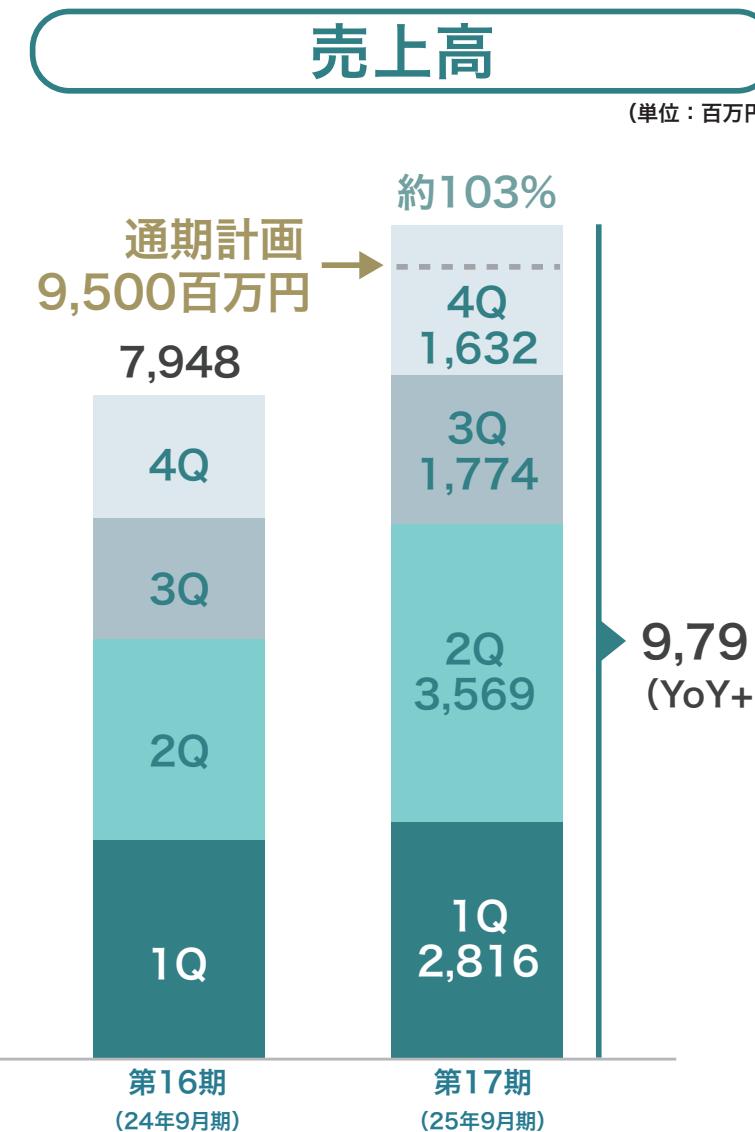
稼働率
(ML・保有 / 既存)

98.06 %

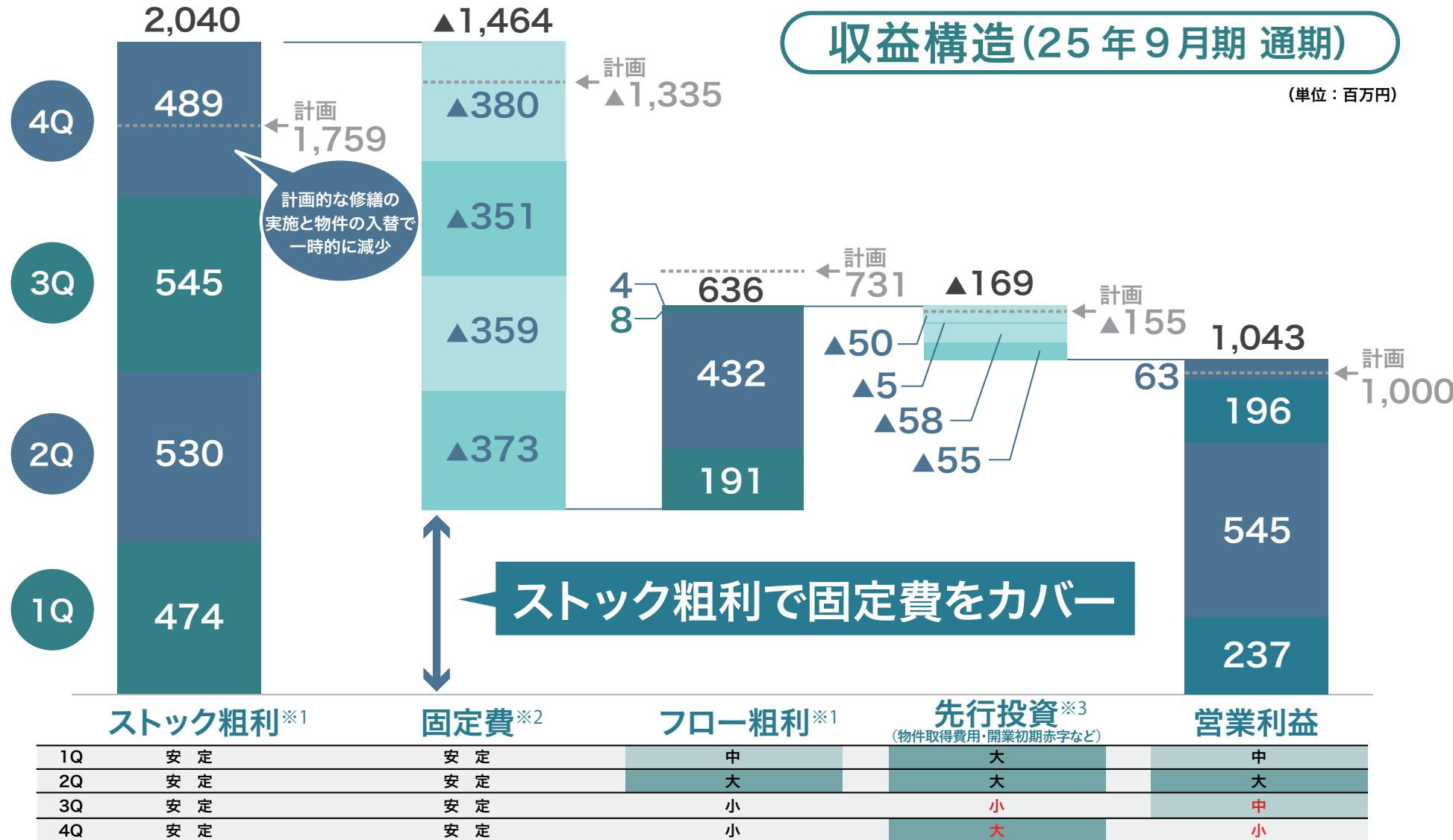
特記事項

- 売上高・営業利益・当期純利益は前年同期比で増加
- 営業利益 10.4 億円 (YoY+36.0%) と通期計画を上振れて達成
 - ・ストック型収入は物件高稼働を背景に堅調
 - ・フロー型収入は 2Q で物件売却が計画通り完了
- 来期以降の継続的な +30% 以上の利益成長に向け積極的な先行投資を実施
 - ・新規仕入れは 7 件獲得 (保有 3 件、ML3 件、PM1 件)
 - ・ML から保有への業態変更 (ML → 保有 2 件)
 - ・保有物件は新たに 5 件が加わり 1 件売却、合計 11 件へ積み上げ

売上高・営業利益は計画以上の着地



ストック粗利は安定的に増加、先行投資等を行うも計画以上の着地



前年同期比で增收増益、各段階利益が積み上がっており
通期計画の営業利益 10 億円を達成

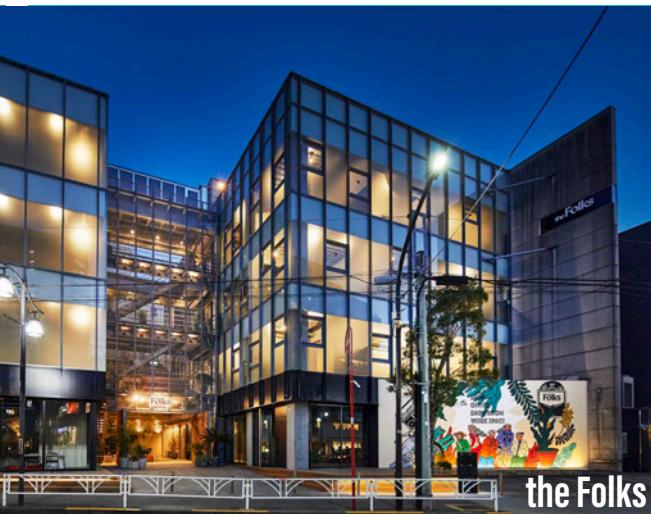
(単位：百万円)	第16期4Q累計 (24年9月期)	第17期4Q累計 (25年9月期)	前年同期比 増減率	第17期 通期予算	予算比 進捗率
売上高	7,948	9,791	+23.2%	9,500	103.1%
ストック型※1	5,520	6,118	+10.8%		
フロー型※2	2,428	3,673	+51.3%		
売上総利益	1,292	1,677	+29.8%		
営業利益	766	1,043	+36.0%	1,000	104.3%
営業利益率	9.6%	10.7%			
EBITDA※3	1,119	1,433	+28.1%		
経常利益	629	827	+31.3%	825	100.2%
特別損失	▲78	▲30	ML物件の早期解約等による減損で 固定資産の薄価を切り下げる		
当期純利益	380	559	+47.0%	570	98.1%

自己資本比率は 26年9月期 1Q の物件売却で回復見込み

(単位：百万円)	第16期4Q	第17期 (25年9月期4Q)	前期末比増減
流動資産	5,526	4,472	▲1,054
現金及び預金	1,130	947	▲183
販売用不動産	3,299	2,372	▲926
固定資産	10,368	16,792	6,424
有形固定資産	8,153	14,440	6,287
流動負債	5,837	3,901	▲1,936
固定負債	7,345	14,011	6,666
純資産	2,711	3,351	639
負債・純資産	15,894	21,264	5,370
流動比率	94.7%	114.6%	20.0%
自己資本比率	16.9%	15.5%	▲1.4%

実際に空間をご体感いただける物件の紹介

<https://realgate.jp/propertytour/>



REALGATE
Property tour



本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

当資料のアップデートは、2026年9月期決算発表以降の2026年12月を目途として開示を行う予定です。

お問合せ先

リアルゲイト IR 室

Email: ir@realgate.jp

IR 情報：<https://realgate.jp/ir/>